

宮原・警固屋地域医療介護連携ネットワークチームの立ち上げについて

1. 背景

近年、急速な高齢化と在宅療養の推進に伴い、医療と介護の両方を必要とする高齢者において在宅医療の需要が高まっている。その要因として、①人口構造の変化による生活課題の多重複雑化、②経済格差や社会的孤立の拡大、③複数疾患と介護ニーズを持つ高齢者の増加などが指摘される。とりわけ、在宅医療に取り組む医療機関や専門職不足に加えて、高齢者の増加と介護施設・居住系施設の不足から在宅医療に対するニーズへの体制整備は依然として必要である。こうした中で、円滑な入院移行や在宅移行ができるよう、医療・介護関係者が連携した支援体制を構築することがより一層重要となる。

呉市における退院支援や退院調整率は増加傾向にあるが、退院前カンファレンス参加率をみると、介護サービス事業所は 90%以上であるが、訪問業務をしている医療機関は 24%程度であり医療機関全体では 19%程度と低い傾向にある。このことから、十分な情報共有や連携が図れず、円滑な入退院支援や在宅療養支援ができていないケースがある。

また、入退院支援の流れや仕組みづくりについて、呉市在宅医療・介護連携推進検討委員会において「入退院時の情報共有は一番の課題であり、スムーズに情報共有できる仕組みがあるといい」「医療・介護関係者がお互いのために情報共有するという認識を持つ必要がある」といった意見があり、入退院支援における医療・介護関係者間の支援体制の構築が求められている。

こうした背景から医療・介護関係者間の適切な情報共有及び連携推進のための具体的方策を検討する必要がある。

2. 目的

宮原・警固屋地域において包括的かつ継続的な在宅医療・介護を提供する為、医療介護連携ネットワークチーム(以下「チーム」という。)を立ち上げ、円滑な支援体制の構築と医療・介護関係者間の連携を推進するための具体的方策や効果的な普及方法を検討する。

3. 主催

呉市宮原・警固屋地域包括支援センター、呉市在宅医療・介護連携推進コーディネーター、呉市高齢者支援課

4. チームスタイル(意見交換会)

チームメンバーで集まり、題材に沿って意見交換や思いを共有しながら話し合う。

5. 参加機関

〈医療〉

病院, 診療所, 薬局, 訪問看護ステーション

〈介護〉

宮原・警固屋地域包括支援センター, 居宅介護支援事業所, 訪問介護サービス事業所,
通所介護事業所, 特別養護老人ホーム

〈行政〉

保健センター

6. 参加職種

医師, 看護師, MSW, 保健師, リハビリテーションスタッフ, 薬剤師, ケアマネジャー, 介護福祉士, ホームヘルパー, その他在宅高齢者支援に関わる職種

7. 検討事項

(1) 効果的な計画策定と円滑な支援体制整備に関する検討

(2) 医療・介護関係者の意見交流会

8. 方法

グループワークや意見交換等

9. 開催回数

年2回開催, 開催時間については協議の上決定

宮原・警固屋地域 医療介護連携ネットワークチーム 名簿

河野 博孝	医師	呉医療センター
中川 豪	医師	呉中通病院
梶間 理人	医師	かじまクリニック
	薬剤師	井上一誠堂
篠原 佳那子	看護師	訪問看護ステーションアネモネ 管理者
堀川 実	理学療法士	はまい病院
栗田 仁士	社会福祉士	呉医療センター
	社会福祉士	呉中通病院
	社会福祉士	みどりヶ丘病院
松本 加奈枝	主任介護支援専門員	常楽園居宅介護支援事業所 管理者
堀 真子	介護福祉士	訪問介護事業所すまいる 管理者
藪本 大輔	管理者	さざんか通所介護事業所
西井 ちづる	施設長補佐	特別養護老人ホーム 常楽園
石川 百合江	介護支援専門員	小規模多機能型居宅介護事業所 初音の家
大下 久美子	管理者	小規模多機能型居宅介護事業所 初音の家
角井 乃々香	保健師	西保健センター
平元 衣里賀	保健師	西保健センター
北恵 尚子	保健師	高齢者支援課
齋藤 愛	保健師	呉市在宅医療・介護連携推進コーディネーター
		宮原・警固屋地域高齢者相談室